

令和7年長浜市議会定例会
令和8年6月定例会
閉会あいさつ

令和8年6月30日

令和８年６月定例月議会の閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本定例月議会におきましては、一般会計補正予算をはじめとする諸議案につきまして、議員の皆様には、ご審議を賜りましたことに、お礼を申し上げます。

特に、（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムの整備に関する債務負担行為について申し上げます。

今回、議会において当該債務負担行為を削除する修正案が可決されたことにより、本事業はいったん足踏みすることとなりました。しかし、私は、これをもって整備を諦める考えはありません。

本施設は、小谷城や浅井三代の歴史的価値を次世代へ伝え、市民の郷土への理解と誇りを育む社会教育施設として整備しようとするものです。

また、館内での学びを現地での体験へとつなげ、市内に点在する戦国ゆかりの史跡や文化施設を結ぶ「戦国ベルト地帯構想」の核として、北部地域への誘客や観光振興、地域経済の活性化にもつなげることを目指してまいりました。

戦国の歴史は、本市を代表する魅力の一つです。大河ドラマで戦国時代が描かれるたびに、長浜の歴史や文化が全国から注目を集め、多くの方に本市を訪れていただく機会となってきました。

こうした歴史資産を生かすことは、市民の郷土への理解と誇りを育むことはもとより、観光振興や地域経済の活性化の面からも、大きな可能性を持つ取組です。大河ドラマの放送に加え、ＪＲグループによるデスティネーションキャンペーンも予定される今は、その可能性をさらに広げるための、まさに投資の好機であると考えております。

小谷城址保勝会及び長浜市商工会からは、事業の着実な推進を求める陳情書が提出されており、地域の皆様をはじめ、多くの市民の皆様の期待を受け止め、これまで設計予算について議会の議決をいただきながら、計画を進めてきたところです。

議員各位におかれましては、今回の議決が、社会教育の拠点づくりや戦国ベルト地帯構想、北部地域の将来に及ぼす影響に加え、これまで協議を重ねてきた国や県との関係

にも関わるものであることを、十分に踏まえていただきたいと存じます。

県内の自治体関係者からも、委員会での審査結果を受け、大河ドラマによって長浜が全国から注目されている今、「なんともったいないことをしているのか」と、この機会を生かさないことを惜しむ声が寄せられています。今回の判断が、市外の方々からそのように受け止められていることにも、ご留意いただきたいと考えております。

その上で、市民の皆様や関係者に対し、それぞれのお立場から、今回の判断に至った理由について、責任をもって十分にご説明いただきたいと考えております。

市といたしましては、議会で示されたご意見を受け止め、より良い事業とするための検討を重ねてまいります。

小谷城跡の保存と活用、施設周辺の利便性や魅力の向上、開館後の利用・運営状況の検証、市内の歴史文化資産との連携や周遊の促進などの視点も踏まえ、さらに工夫できることがないか、改めて検討いたします。

また、議員各位からいただいた財政運営に対するご指摘についても受け止め、将来世代に過度な負担を残すことの

ないよう、本事業についても財政面から十分に検証するとともに、市政全体の財政健全化に着実に取り組んでまいります。

本事業に必要な財源につきましても、予定されている地域未来交付金の活用を含め、国の補助制度をはじめとする活用可能な財源について、あらゆる可能性を探り、最大限の工夫を重ねながら、その確保に努めます。

なお、市は、今回、再議を行わないことといたしました。

その理由は、第一に、学習用端末の更新事業、物価高対策として実施する上下水道基本料金の減免に係る負担金、民間保育所等の施設改修補助金など、本事業以外にも、市民生活や今後のまちづくりにとって重要であり、その実施や支出を遅らせることのできない事業を守るためです。

第二に、今回の議決を踏まえ、議会や地域の皆様との対話をさらに重ね、今後の前向きな取組につなげていくためです。

市民生活への影響を避けることを最優先に考えた判断であることについて、市民の皆様のご理解をお願い申し上げます。

「改革と対話」を掲げる市政として、地域の皆様や議会との対話をさらに深め、本施設の意義と必要性について丁寧な説明を重ねてまいります。そして、必要な見直しと工夫を加えながら、整備の実現に向けて、諦めることなく前向きに取り組んでまいります。

それでは、閉会に当たりまして、近況についてお話をさせていただきます。

まず、株式会社黒壁の経営再建について申し上げます。

本定例月議会におきまして、新たな株式会社黒壁への出資金についてご議決を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

去る６月２３日の株式会社黒壁定時株主総会では、事業や従業員の雇用、資産などを新会社へ承継するための吸収分割契約等が承認されました。これにより、８月１日の新会社による事業開始に向けて、黒壁の再生はいよいよ実行段階に入ります。

黒壁は、中心市街地を観光のまちへと再生してきた、本市のまちづくりの象徴です。

今後は、本市、奥伊吹ホールディングス、長浜商工会議所、長浜米原観光協会の四者が連携し、その事業と雇用を守り抜いてまいります。また、長年にわたり黒壁を支え、応援してこられた市民や株主の皆様の思いを受け止め、黒壁が培ってきた歴史と大切なアイデンティティを、次の時代へ引き継いでいく所存です。

今回の出資は、長浜市全体の観光と地域経済の将来を切り拓く「未来への投資」です。黒壁がこれからも観光誘客のエンジンとして、長浜の魅力を一層高める存在となるよう、再生を着実に進めます。

同時に、公金を出資する責任を重く受け止め、経営状況や地域経済への波及効果などを継続的に確認し、市議会及び市民の皆様に丁寧にお示ししてまいります。

次に、湖北病院及び湖北やすらぎの里の整備について申し上げます。

湖北病院本館は建物の老朽化が進み、令和５年に基本構想・計画を策定し、昨年秋には実施設計を完了いたしました。しかしながら、償還計画の資金不足や病院事業全体の経営悪化に直面し、当初計画のまま実現することが困難となったことは、皆様ご承知のとおりです。

一方で、湖北病院は、言うまでもなく、北部地域の医療の拠点となる本当に重要な施設です。それだけでなく、地域の誇りであり、安心の象徴であり、地域の皆様の心の拠りどころです。

そこで、将来世代に過度な負担を残さないことを大事にしつつ、市北部に必要な医療機能と地域の皆様の心の拠りどころを必ず守るという強い思いを湖北病院と共有し、納谷院長をはじめ、湖北病院の皆様と何度も何度も協議を重ねてまいりました。

そうした協議を経て、新たな整備の方向性について合意することができたことから、６月２５日には議員の皆様にもその内容をご説明し、その後、長浜市病院再建・再編推進本部において整備方針を確認いたしました。その内容は、

新聞報道等を通じて、市民の皆様にも広くお知りいただいたところでは。

今回の見直しは、市北部に必要な医療・介護機能を、将来にわたって持続可能な形で守っていくための見直しです。地域急性期機能と慢性期機能を確保し、入院、救急、外来医療を引き続き担うとともに、巡回診療や訪問診療等により、へき地医療を確保してまいります。

湖北病院の皆様には、日々の医療提供を確実に行いつつ、厳しい経営環境や限られた財源の中で、将来の北部医療のための検討を重ねていただきました。改めて、深く感謝申し上げます。

今後、関係機関との協議や議会での手続き等にしっかりと対応し、市民の皆様にも丁寧に説明しながら、湖北病院及び湖北やすらぎの里の整備に全力で取り組んでまいります。

こうした施設整備と併せて、病院事業の経営状況と、再建・再編について申し上げます。

令和７年度の病院事業会計の決算見込みにつきましては、本定例月議会の答弁においても申し上げたとおり、今後、監査委員の審査等を経て、９月定例月議会に提出する予定ですが、ここでは現時点の主な状況をご報告いたします。

市立２病院の令和７年度の経常損失は１４億円となり、前年度と比べて８億４千万円の収支改善を見込んでおります。また、国、県及び市からの緊急的な支援を除いた場合でも、経常損失は１７億９千万円となる見込みであり、経営改善実行計画に掲げた収支目標に対し、２億３千万円の改善となる見込みです。

こうした収支改善は、病床の運用や入退院の調整、地域の医療機関との連携、経費の見直しなど、病院事業全体で取組を積み重ねてきた成果であります。

厳しい経営環境の中、日々の診療を守りながら経営改善に尽力いただいた職員の皆さんに、改めて心から感謝を申し上げます。

今回の改善は、病院再建に向けた確かな一歩であり、今後の再編を検討する上でも、重要な土台になるものと考えております。

今後は病院再建の取組を進めるとともに、地域の将来の医療を守るため、病院の規模や機能、病院間の役割分担、経営のあり方など、病院再編に向けた検討も進めてまいります。

その際には、将来にわたる医療の確保と市民負担の抑制はもとより、現場で地域医療を支える職員の声を丁寧に伺ってまいります。

市民の命と健康を守る持続可能な地域医療体制の確立に向け、市と病院事業が一丸となって取り組んでまいりますので、議員各位におかれましても、引き続きご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、議員の皆様一言申し上げます。

来月には長浜市議会議員選挙を控えており、本定例月議会は、現在の任期における最後の定例月議会となります。

議員の皆様には、この４年間、市政の各般にわたり熱心なご審議と貴重なご提言をいただきました。時に意見を異にすることがありましたが、「長浜市をより良いまちにしたい」という思い自体は共通するものであったと受け止めて

おります。これまでのご指導、ご鞭撻に、感謝を申し上げます。

今任期をもってご勇退される皆様におかれましては、これまでのご功績に、敬意と感謝を申し上げます。また、再び選挙に臨まれる皆様におかれましては、それぞれの信念のもと、広い視野と深い洞察力をもって、本市の将来に向けた考えを市民の皆様にも訴えられることと存じます。皆様のご健闘をお祈りいたします。

これから暑さが一層厳しくなります。くれぐれもご自愛いただき、皆様のますますのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。

今後とも、それぞれのお立場から、長浜市の発展のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

以上をもちまして、令和8年6月定例会月議会の閉会に当たってのごあいさつといたします。誠にありがとうございました。